



ある雑誌の健康コラムです。  
本当に健康になるためには免疫力を高める  
ことが必要です。自然の中に入ることを  
イメージするだけでも免疫力が高まること  
がわかりました。実際に自然の中に出て  
森林浴をしたり、土に触れたりすると  
もっと免疫力が高まるのではないかと期待  
されています。私たちの体は1万年前か  
ら細胞学的にも遺伝学的にもまったく  
変化していません。私達は1万年前ジャ  
ングルや草原を走り回っていました。  
本当の健康は「笑って自然に触れる」こと  
です。

#### <第100回 ほほえみの会>

会が出来て9年、100回目を迎えた会は4人の参加でした。

#### ▽ 退院後の話題が出ました。

中1の男の子。最近学校に行きたがらない。体の調子が悪いというから近くの医者に見てもらった所、貧血だという。もともとの病気が原因なのか、それとも学校でいやなことがあって精神的なものなのかわからない。学校の先生も心配して毎日電話をくれるがそれもストレス。他の方からは、うちも2年間学校へ行くのがいやだといった。原因は友達関係だった。でもその時期を乗り越えたら強くなったという話も出ました。

#### ▽ 小さな子供が病棟前の扉のところで「お母さんおしっこ」と叫んでいました。トイレまで案内して、させてあげたらその子は家族控え室へ走っていきました。きっとお母さんは病室で患児の面会をしていて兄弟が一人外で待たされていたのでしょう。

面会中に兄弟の面倒を見てあげる人がいてくれたなら…。

#### ▽ 保母さんの話題も引き続き話し合いをしました。

- ・ 院長の文章は納得行かない。就学前の幼児もいるし人数の多い少ないではない。
- ・ 保母さんの役割は大きいし、現状をよく理解していないのではないか。看護婦さんの担当は決まっても忙しくておやつ時間も各人が勝手に食べていて羨の面でもよくない。やはり専任者が必要。
- ・ 他の病棟に行って面倒を見てもらうのは現実的でない。午前午後で分けるなど運用面で工夫はできないか。
- ・ 今入院している人たちは保母さんがいないことが当たり前になっているかもしれない。
- ・ 新聞に投書をしたらどうか。
- ・ 県庁の病院局に話にいけないか。
- ・ 次善策としてボランティアの活用ができないか。例えば 保母さん経験者に「有料ボランティア」などはできないか。

堀越先生も理解を示してくださいました。

保母さんが3階に配置されたことで2歳の子もうまく採血ができるようになったなど効果は出ている。

子ども病院には3人の保母さんがいて恵まれてはいるが、いいことは率先して広めていきたい。保母さんだけでなくソーシャルワーカーやチャイルドライフスペシャリストなども導入できるようにしたい。

やはり、皆さんの意見をまとめて病院側と話し合いの場を持ちたいと思います。また他にどんな方法があるのか考えていきたいと思います。

静岡県立こども病院「患者権利宣言」

「子供さんとご家族は自身の精神的、文化的、社会的、倫理的な問題について要望する権利があります」

次回は 11月9日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k\_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>